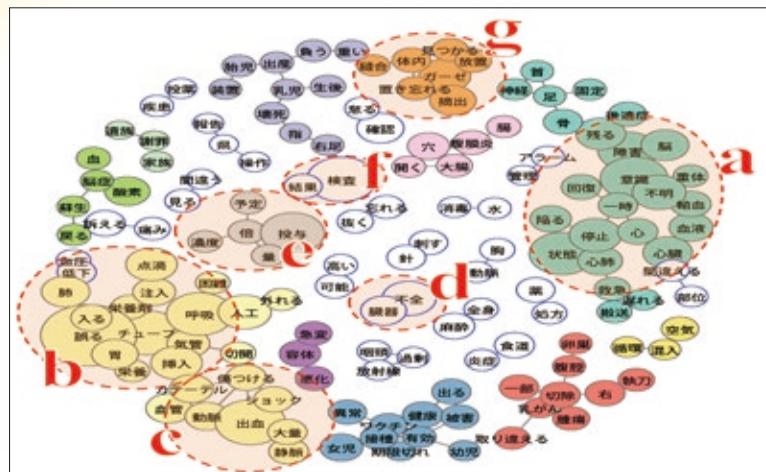




## 減災イノベーション（事例：医療事故ビッグデータ）

図1 医療事故ビッグデータの共起ネットワークによるクラスター分析



## 活動の目的

- 1 ビッグデータを用いた減災の為のシステムやイノベーションを研究する  
(図1 医療事故ビッグデータの共起ネットワークによるクラスター分析)
  - 2 減災に関する知財のマッピングやマッチングを促進し、事業創造する  
(図2 事故発生グループ群別のICT減災プラットホーム)

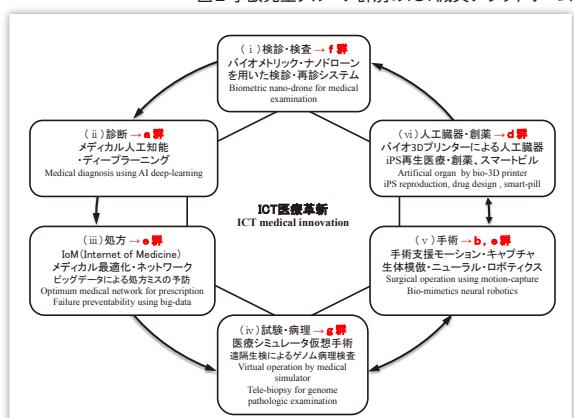
### 三 連携にいたる経緯

京都大学稻盛記念財団寄附講座(日置弘一郎教授主催)の経営哲学講座を起点に京都発明協会講演会や特許庁主催講習会などの専門家によって組織されたイノベーションの社会連携。KIRAS(オーストリア政府「災害抑止プログラム」)理事として得た最新研究を国内に紹介する。

互动本章

ICTを利用した減災システム、救難救護の為のレスキューネットワークや医療事故抑止の為のレジリエンス・マネジメントに向け活動している。特に、労働現場の危険や不便を改善する創意工夫・アイデアを公表し、新案・特許など知財の事業創造を通して、日本の地域社会の持続可能性に貢献する

図2 事故発生グループ群別のICT減災プラットホーム



## 活動の成果

- 1 「JR鉄道事故抑止のGPS型ATS/ATC」経営情報学会や工業経営研究学会で企業に提案
  - 2 Chroust, G. and Atsuji, S., "Resilience Management: from Fukushima Disaster to Boiling Oceans and Northward Viralspread" , ISSS Journals the 61th Meeting , ISSS International Society for the Systems Sciences, Web-publishing, 2017, pp.1-20.
  - 3 Atsuji, S., *Unsafety: Disaster Management, Organizational Accidents, and Crisis Sciences for Sustainability* , Springer, 2016. URL: <http://www.springer.com/us/book/9784431559221>

## 今後の課題・目標

- 1 ICT利用による減災システムやレスキューネットワークの研究開発
  - 2 労働現場での組織上の危険や不便を改善する創意工夫アイデアの可視化

|教員紹介



■ 総合情報学部 教授

阿辻茂夫  
*Shigeo Atsui*

現代組織における意思決定の情報プロセスを中心に「組織知」のメカニズムを研究してきた。近未来の持続可能社会に向けて、事故や災害を抑止する「減災の為のマネジメント」のあり方について、他分野の専門家と社会連携を通してICT利用による学の実化を目指している。  
URL : <http://www.un-safety.net/index.html>